

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第1回問題】

No.	問題	解答
1	商品5,000円を販売し、代金のうち2,000円は送金小切手、1,000円は郵便為替証書を受け取り、残額は掛けとした。	
2	商品3,000円を仕入れ、代金のうち2,000円は、かねて受け取っていた得意先A社振り出しの小切手を手渡し、残額は掛けとした。	
3	商品10,000円を販売し、代金は当社振り出しの小切手を受け取った。	
4	定期預金1,000,000円が本日満期となり、利息2,000円とともに普通預金口座へ振り替えられた。	
5	銀行で当座預金口座を開設し、100,000円を普通預金口座から当座預金口座へ振替えた。また、小切手帳の交付にかかる手数料2,000円を現金で支払った。	
6	A銀行の当座預金口座から5,000円をB銀行の普通預金口座へ振り込んだ。その際、振込手数料500円がA銀行の当座預金口座から差し引かれた。なお、当社は複数の金融機関を利用しており、管理のために口座ごとに勘定を設定している。	
7	<p>会計係は小口現金係から、次のとおり支払額の報告を受け、ただちに、同額の小切手を振り出して補給した。なお、当社は定額資金前渡制度(インプレスト・システム)を採用している。</p> <p>ノート代:100円、バス代:800円、電車代:500円、郵便切手代:1,200円</p>	
8	月末に金庫を実査したところ、紙幣・硬貨38,000円、得意先振り出しの小切手10,000円、得意先振り出しの約束手形8,000円、送金小切手5,000円、郵便切手2,500円、収入印紙1,500円が保管されていたが、現金出納帳の残高は50,000円であった。不一致の原因はすぐに判明しなかったため、現金過不足勘定として処理する。	
9	決算整理前残高試算表には、現金過不足の貸方残高3,000円が記載されている。決算日において、このうち2,000円は受取手数料の記入漏れであることが判明したが、残額については原因不明のため、雑損もしくは雑益として処理することにした。	
10	決算日における現金の帳簿残高は3,000円であるが、実際有高は2,600円であった。この差額のうち、300円は「水道光熱費」の記入漏れであることが判明したが、残額は原因不明のため雑損もしくは雑益として処理する。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第2回問題】

No.	問題	解答
1	A社から商品40,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は30,000円であるが、X銀行と当座借越契約(借越限度額:100,000円)を締結している。また、仕入れにかかる引取運賃2,000円は現金で支払った。	
2	決算において、当座預金勘定の貸方残高10,000円を適切な勘定に振替える。なお、当社では当座借越勘定を用いていない。	
3	前期決算において、当座預金勘定の貸方残高10,000円を当座借越勘定に振り替えていたが、本日(当期首)再振替仕訳を行う。	
4	収入印紙3,000円と郵便切手2,000円を郵便局で購入し、代金は現金で支払った。なお、これらはすぐに使用した。	
5	当期中に収入印紙3,000円と郵便切手2,000円を購入し、いずれも費用として処理していた。ただし、決算日において、収入印紙1,000円と郵便切手800円が未使用であることが判明したため、適切な勘定科目へ振替える。	
6	前期決算において、未使用の収入印紙1,000円と郵便切手800円を貯蔵品勘定に振り替えていたが、本日(当期首)再振替仕訳を行う。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第3回問題】

No.	問題	解答
1	中古車販売業を営んでいる当社は、販売目的の中古車を500,000円で購入し、代金は月末に支払うことにした。	
2	商品5,000円を仕入れ、代金のうち2,000円は注文時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、仕入にもなう運送保険料1,000円は現金で支払った。	
3	A社に商品8,000円を売上げ、代金のうち3,000円は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は同社振り出しの約束手形を受け取った。	
4	かねてA社に掛売りした商品のうち1,000円が品違いのため、返品されてきた。	
5	先月末、A社から掛けて仕入れた商品100個(@500円)のうち、20個に品質不良があったため返品した。	
6	A社に対する買掛金10,000円を普通預金口座から振り込んだ。その際、振込手数料として1,000円が同口座から引き落とされた。	
7	本日、A社に対する買掛金50,000円および売掛金30,000円の決済日につき、A社の承諾を得て、両者を相殺処理することとした。なお、買掛金の超過分20,000円は小切手を振り出して支払った。	
8	本日、A社に対する買掛金20,000円および売掛金30,000円の決済日につき、A社から両者を相殺して差額を適切に処理する旨の提案を受けたため、これを承諾した。なお、売掛金の超過分10,000円は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金口座に預け入れた。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第4回問題】

No.	問題	解答
1	仕入先A社より商品9,000円を仕入れ、代金のうち4,000円は注文時に支払っていた手付金を充当し、残額は掛けとした。なお、商品の引取運賃(当社負担)1,000円は現金で支払った。	
2	仕入先A社から商品3,000円を仕入れ、代金のうち2,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛とした。なお、先方負担の引取運賃500円は現金で立替払いした。この立替分は立替金勘定で処理すること。	
3	仕入先A社から商品5,000円を仕入れ、代金のうち3,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛とした。なお、A社負担の引取運賃800円は現金で立替払いした。この立替分は掛代金と相殺して処理すること。	
4	得意先A社へ商品10,000円を売上げ、代金のうち4,000円は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。また、同時に配送業者に商品を引き渡し、当社負担の送料1,000円は後日支払うこととした。	
5	得意先A社へ商品50,000円を売上げ、先方負担の送料3,000円を含めた代金を掛けとした。また、同時に運送会社へ商品を引き渡し、送料3,000円は現金で支払った。	
6	商品12,000円を売上げ、代金のうち10,000円は信販会社発行の商品券で受取り、残額は現金で受取った。	
7	商品5,000円をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社への手数料(販売代金の2%)は販売時に計上する。	
8	以前、クレジット払いの条件で商品10,000円を販売していたが、信販会社への手数料(販売代金の5%)を差し引いた手取額が普通預金口座に振り込まれた。なお、信販会社への手数料は代金回収時に計上する。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第5回問題】

No.	問題	解答
1	得意先A社に対する売掛金10,000円の回収として、同社振出、当社宛の約束手形を受け取った。	
2	仕入先A社に対する買掛金5,000円の支払いのため、同社宛の約束手形を振り出した。	
3	得意先A社に対する売掛金5,000円について、取引銀行を通じて電子記録債権の発生記録の請求を行い、同社の承諾を得たうえで、電子記録債権の発生記録を行った。	
4	仕入先A社に対する買掛金3,000円の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通して債務の発生記録を行った。	
5	前期に計上した電子記録債権5,000円が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金の設定は行っていない。	
6	得意先A社が倒産したため、当期に発生した売掛金10,000円について、貸倒れの処理を行う。	
7	得意先A社が倒産し、当期に発生した売掛金10,000円のうち、4,000円は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。	
8	得意先A社が倒産したため、前期に発生した売掛金10,000円について、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は8,000円である。	
9	前期に貸倒れとして処理していた売掛金5,000円のうち、3,000円が回収され、当座預金口座に振り込まれた。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します



解説動画URL→

【第6回問題】

No.	問題	解答
1	得意先A社に対して貸付期間6ヶ月、年利率5%という契約で現金100,000円を借用証書にて貸付けていたが、本日満期日のため、利息とともに現金で返済を受けた。	
2	取引銀行から借入期間9ヶ月、年利率3%という契約で現金200,000円を借入れていたが、支払期日が到来したため、利息とともに現金で返済した。	
3	借入金(元金均等返済)の今月返済分として元金50,000円と利息が普通預金口座から引き落とされた。なお、利息は未返済額800,000円に年利率3.65%を適用し、30日分の日割計算(1年は365日とする)をした額である。	
4	A社から借入期間4ヶ月、年利率6%の条件で800,000円を借入れた。その際、同額の約束手形を振り出し、利息を差し引いた手取金が当座預金口座に振り込まれた。	
5	A社から貸付期間4ヶ月、年利率6%の条件で800,000円の貸付け依頼を受けたため、同額の約束手形を受け取るとともに、利息分を差し引いた残額を当社の普通預金口座からA社の普通預金口座に振り込んだ。	
6	当社の代表取締役であるA氏に資金を貸し付ける目的で600,000円の小切手を振り出した。ただし、重要性を考慮して通常の貸付金勘定とは区別して処理することにした。なお、貸付期間8ヶ月、年利率2%で、利息は元金とともに受け取る条件となっている。	
7	当社の代表取締役であるA氏から、個人資産の現金300,000円を借入期間4ヶ月、無利息の条件で借入れ、普通預金口座に入金した。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第7回問題】

No.	問題	解答
1	従業員が出張から戻り、旅費の精算を行ったところ23,000円との報告を受けた。概算払いとして20,000円を手渡していたが、不足額を従業員が立替えているため、次の給料に含めて支払うこと(未払金勘定で処理)とした。	
2	交通系ICカードに現金10,000円を入金(チャージ)し、領収証の発行を受けた。なお、当社はICカード入金時(チャージ時)に仮払金勘定で処理し、利用時に適切な科目へ振替える方法を用いている。	
3	交通系ICカードを用いて、電車代6,000円、消耗品1,000円を支払った。なお、当社はICカード入金時(チャージ時)に、仮払金勘定で処理し、利用時に適切な科目へ振替える方法を用いている。	
4	交通系ICカードに現金10,000円を入金(チャージ)し、領収証の発行を受けた。なお、当社はICカード入金時(チャージ時)に全額を費用処理し、決算時に残高を仮払金勘定へ振替える方法を用いている。	
5	交通系ICカードを用いて、電車代6,000円、消耗品1,000円を支払った。なお、当社はICカード入金時(チャージ時)に全額を費用処理し、決算時に残高を仮払金勘定へ振替える方法を用いている。	
6	出張中の従業員から当座預金口座に25,000円の入金があった。このうち、20,000円は得意先A社から注文時に受け取った手付金であることが判明したが、残額の内容は不明である。	
7	従業員給料300,000円の支給に際し、従業員の生命保険料の立替分4,900円、従業員貸付金の返済額10,100円(元本返済分10,000円、利息分100円)、所得税の源泉徴収額20,000円、社会保険料の合計額15,000円を差引き、残額を普通預金口座から振り込んだ。	
8	従業員の給料から差し引いていた1月分の所得税の源泉徴収額20,000円を税務署に現金で納付した。	
9	従業員の給料から差し引いていた1月分の社会保険料の従業員負担分15,000円と会社負担分(従業員負担分と同額)をまとめて現金で納付した。	
10	従業員の給料から差し引いていた1月から6月までの所得税の源泉徴収額120,000円を現金で納付した。なお、当社は所轄の税務署より納期の特例承認を受けている。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第8回問題】

No.	問題	解答
1	新店舗建設用の土地500㎡を1㎡あたり5,000円で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、この土地の購入にかかる仲介手数料50,000円、登記料30,000円および整地費用100,000円は後日支払うこととした。	
2	以前に購入した土地(購入代価2,500,000円、仲介手数料50,000円、登記料30,000円、整地費用100,000円)を3,000,000円で売却し、代金は後日受け取ることにした。	
3	×5年4月1日に不要となった備品(購入日:×1年4月1日、取得原価:300,000円、残存価額:ゼロ、耐用年数5年、償却方法:定額法、記帳方法:間接法)を50,000円で売却し、代金は後日受け取ることにした。なお、当社の決算日は3月31日である。	
4	×4年12月31日に不要となった備品(購入日:×1年4月1日、取得原価:600,000円、残存価額:ゼロ、耐用年数6年、償却方法:定額法、記帳方法:間接法)を230,000円で売却し、代金は後日受取ることにした。なお、当社の決算日は3月31日である。	
5	これまで使用してきた営業用車両(取得原価800,000円、減価償却累計額480,000円、当期減価償却費40,000円、間接法で記帳)を下取りに出し、新たに車両1,000,000円を購入した。なお、下取り価額は300,000円であり、新車両の購入価額と旧車両の購入価額との差額は翌月末に支払うことにした。	
6	建物の改良と修繕を行い、工事代金3,000,000円は小切手を振り出して支払った。なお、代金のうち2,000,000円は改良(資本的支出)、残額は現状維持のための定期的な修繕(収益的支出)である。	
7	新規事務所を1ヶ月あたり40,000円で賃貸借契約を行い、初月賃料40,000円、敷金は賃料4ヶ月分、仲介手数料20,000円を当社の普通預金口座から振り込んだ。	
8	事務所の退去に伴い、賃貸借契約を解約し、契約時の敷金160,000円については、修繕費40,000円が差し引かれ、残額は普通預金口座に振り込まれた。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第9回問題】

No.	問題	解答						
1	<p>商品5,000円を売上げ、代金のうち3,000円は現金で受け取り、残額は掛けとした取引について、下記のとおり入金伝票を作成した場合、振替伝票に記入される仕訳を答えなさい。なお、当社は伝票の記入方法に3伝票制を採用しており、商品売買の処理は3分法で行っている。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">入金伝票</th> </tr> <tr> <th>科目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売掛金</td> <td>3,000</td> </tr> </tbody> </table>	入金伝票		科目	金額	売掛金	3,000	
入金伝票								
科目	金額							
売掛金	3,000							
2	<p>商品9,000円を仕入れ、代金のうち7,000円は現金で支払い、残額は掛けとした取引について、下記のとおり出金伝票を作成した場合、振替伝票に記入される仕訳を答えなさい。なお、当社は伝票の記入方法に3伝票制を採用しており、商品売買の処理は3分法で行っている。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">出金伝票</th> </tr> <tr> <th>科目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仕入</td> <td>7,000</td> </tr> </tbody> </table>	出金伝票		科目	金額	仕入	7,000	
出金伝票								
科目	金額							
仕入	7,000							
3	<p>当社が所属している業界団体の年会費200,000円を現金で支払った。</p>							
4	<p>商品PRのためのチラシ制作費70,000円を現金で支払った。</p>							
5	<p>事務所における今月の家賃200,000円およびインターネット回線利用料6,000円が普通預金口座から引き落とされた。</p>							
6	<p>当社は商品の保管を倉庫業者に委託しているが、今月の倉庫料50,000円が普通預金口座から引き落とされた。</p>							

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第10回問題】

No.	問題	解答
1	得意先A社に掛で売上げた商品の一部1,000円が品違いのため返品されてきた際に、誤って仕訳を貸借逆に計上していたので、本日これを訂正する。なお、訂正にあたっては、記録の誤りのみを部分的に修正する方法によること。	
2	仕入先B社から商品7,000円の掛仕入れを行った際、誤って70,000円と計上していたので、本日これを訂正する。なお、訂正にあたっては、記録の誤りのみを部分的に修正する方法によること。	
3	土地と建物に対する固定資産税400,000円の納税通知書を受け取っていたが、本日、第2期分100,000円を現金で納付した。なお、当社では未払金の計上は行っていない。	
4	土地と建物に対する固定資産税400,000円の納税通知書を受け取っていたが、本日、第2期分100,000円を現金で納付した。なお、当社では納税通知書を受け取った時点で全額を未払金として処理している。	
5	商品100,000円を仕入れ、消費税10,000円を含めた合計額のうち30,000円は現金で支払い、残額は掛とした。なお、消費税の処理は税抜方式で記帳すること。	
6	決算につき、消費税の納付額を計上する。なお、消費税の仮払分は10,000円で、仮受分は15,000円である。消費税の処理は税抜方式で行っている。	
7	中間申告の時期となったため、法人税50,000円、住民税15,000円及び事業税25,000円を現金で納付した。	
8	決算において、法人税、住民税及び事業税（勘定科目は「法人税等」を用いる）の金額が200,000円と確定した。なお、当社はすでに90,000円を中間納付している。	

日商簿記3級検定試験【第1問:項目別対策】

※本試験では、各設問ごとに勘定科目が与えられるので該当する「記号」で解答します

解説動画URL→



【第11回問題】

No.	問題	解答
1	イロハ株式会社の設立にあたり、1株当たり500円で株式200株を発行し、全株式の払込みを受け、当座預金口座に預け入れた。	
2	イロハ株式会社は新規事業を開始するために増資を行うことになり、1株当たり600円で株式200株を発行し、全株式の払込みを受けた。なお、払込金はすべて当座預金口座に預け入れた。	
3	決算整理後の売上勘定の残高は60,000円、受取利息勘定の残高は3,000円である。これらの収益の各勘定を損益勘定に振替える。	
4	決算整理後の仕入勘定(売上原価を示す)の残高は35,000円、保険料勘定の残高は5,000円、支払利息勘定の残高は8,000円である。これらの費用の各勘定を損益勘定に振替える。	
5	損益勘定の記録によると、当期の収益総額は63,000円、費用総額は48,000円であった。この差額を繰越利益剰余金勘定へ振替えた。	
6	損益勘定の記録によると、当期の収益総額は70,000円、費用の総額は80,000円であった。この差額を繰越利益剰余金勘定へ振替えた。	
7	株主総会において、繰越利益剰余金100,000円の一部を次のとおりに処分することが承認された。 ・株主配当金:20,000円・利益準備金の積立て:2,000円	